

会 議 等 結 果 報 告 書

会議区分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> 会 議 </div> ・ 打合せ ・ 協 議	文書番号	2486
		決裁期日	令和5年11月20日
名 称	令和5年度 第3回安平町未来創生委員会		
日 時	令和5年11月2日 午前・ 午後 1時30分～3時00分		
場 所	総合庁舎 大会議室		
出席者	委 員・外部有識者 未来創生委員会委員14名 安 平 町（政策推進課）渡邊課長、山口参事、木村課長補佐、高橋主幹、笹山主査 主事吉田		
会議概要	<p>1 開会（進行：渡邊政策推進課長） ◇過半数以上の参加により委員会が成立していることを宣言</p> <p>2 委員長あいさつ ◇現在の総合戦略の改訂版となるデジタル田園都市国家構想総合戦略の案についての議事が予定されているので、様々な視点から意見を頂きたい。</p> <p>3 議事 （1）安平町デジタル田園都市国家構想総合戦略（案）について【資料1】 ◇総合戦略案について説明。 ・大きな方向性は変えないが、安平町の特徴を活かしながら国の求めるデジタルを活用した地域創生を目指すための改訂であることを説明。 ・パブリックコメントを11月20日から実施予定。 ◇質疑応答要旨</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <委員> デジタル社会に対応した学習機会の提供ということで、教育タブレットの持ち帰りや、授業中のデジタルデバイスの活用があると思うが、発達中の子どもへの脳への影響などの調査は行わないのか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <政策推進課> 現時点ではデジタルデバイスが子どもの身体に対して悪影響を及ぼすという国などからの情報は持っておらず、調査については行っていない。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <委員> パソコンを用いた学習は悪影響が出ると思う。しっかり自分の字や絵で発表することを重視すべき。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <政策推進課> デジタルについて子どもの関心や好奇心も高く、授業に臨む姿勢や入りが全然違うことが教育委員会から聞いている。いろいろな項目で強みや弱点があると思うが、教育現場ではデジタルについては、好意的に捉えている。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <委員> デジタル導入の時期を中学生からなど、遅らせてはどうか。安平町では自然の中での発達を推奨してはどうか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <政策推進課> ガンケ山など、アナログなコンテンツや自然に関するコンテンツの魅力も同時に伝えていきたい。総合戦略は、デジタルを手段として、地域の良さを伸ばすツールとして加味している計画になっている。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <外部有識者> デジタルは導入するだけでは活用できないので、使う人が理解して使いこなす必要が </div>		

<p>ある。導入して、それをどう使いこなすかまでの導線を考えて、デジタル化の展開・活性化を進めていってほしい。</p>
<p><政策推進課> 実態に合わせた事業を作る必要があると認識している反面、ドローンの導入など、安平町の地域性やタイミングに合っているかなど、バランスを見ながら、今後も原課と検討していく。</p>
<p><政策推進課> 町全体のデジタル化については、町民の理解度をいかに上げるかが大きなハードルになっている。特に高齢者に対して、どうアプローチするかを考える必要がある。今年から、住民票と印鑑証明書のコンビニ交付を始めていて、今後需要があれば、税の支払いなども支払い可能になるように試行錯誤を繰り返しながらデジタル化について取り組んでいきたい。</p>
<p><委員> 医師との遠隔医療診療体制について、昨日の町政懇談会でも地域医療についていろいろと連携を検討されていることを聞いた。遠隔医療診療体制について、医師と患者がやり取りするのか、それとも看護師が中継として入るのか、具体的に決まったものがあれば教えてほしい。人感センサーを利用した高齢者の緊急通報システムは具体的にどのようなものになるのか。</p>
<p><政策推進課> 遠隔医療診療体制については、具体的なものはまだ決まっていない。札幌などでは患者が直接スマホ等で遠隔診察を受けるサービスが始まっている。病院でどこまで対応できるかや、遠隔医療の需要量をみて進めていくことになる。</p>
<p><外部有識者> 人感センサーは人の動きを検知するものになって、普段検知している動きが確認できないと異常を検知する。緊急通報システムでは、人感センサーが異常検知した段階で電話や訪問を行い、状況を確認して対応するものになっている。</p>
<p><委員> 総合戦略P39②子育て 【女性が働きながら子育てできる環境の創出】について、「男性の育児休暇を取得しやすい環境づくり」と本文に記載があるので、タイトルの【女性】の文言いらぬのではないか。</p>
<p><政策推進課> 修正の対応を行う。</p>
<p><委員> 役場内のデジタル化の内容については計画に記載しないのか。</p>
<p><政策推進課> 総合戦略には、人口減少対策の意味合いがあり、役場内のA I 導入や事務文書の作成など働き方改革の分野は直接人口減少対策に繋がらないという判断で今回はあえて計画には入れていない。</p>
<p><委員> 役場の業務を減らすことをもっと表明した方がいい。内容について小さいと感じる。見せ方を変え、華を持たせるような大きなものを盛り込んでほしいと思う。先ほど遠隔診療体制の話が出ていたが、そういった仕組み作りから始めていかないと、高齢者が安心して暮らせないと思う。デジタルでできることを形にしていってほしい。</p>
<p><政策推進課> 計画については、地方としてできるデジタルの取り組みと国のデジタルの取り組みを分けて考える必要がある。安平町ではデジタルの要素を総合計画に組み込んで、暮らしやすい町づくりを計画に盛り込んでいく。</p>
<p><委員> 教育問題について、小中一貫の早来学園ができたが、その後高校、大学で町外に転出するのがもったいないと感じる。安平町に通信制大学、デジタル大学を作るのはどうか。</p>

<p><委員> 大学や高校を建てることは、ハードルが高いと思う。他の町の大学や高校とコラボをするなどはないのか。</p>
<p><政策推進課> 例えば、現在も駒澤大学と連携して事業を行っている。関係人口とデジタルがリンクする話になるが、東京にしながら安平町と関わりを持てることがデジタル化の利点と捉えている。追分高校の現状については、パソコンを用いた情報リテラシーの選択制の授業しかなく、全員が毎月デジタルについての授業が組まれているわけではない。</p>
<p><委員> 追分高校は、地元の進学率が低い。大学を建てるだけでは、定住には繋がらないと思う。地元の小中学校で勉強した子どもが追分高校に行くのが一番理想。</p>
<p><外部有識者> コロナ禍での遠隔授業については、緊急避難的に実施していて、通信制大学、テレビやWEBを使ってそこいなくても単位がもらえるもの。WEBやスマホを使って、授業を行い、スクリーニングで何日か対面で授業を受けなければならない。対面授業の際に関係を作り、定住まで繋がらなくても関係人口を増やす目的として、デジタルをベースとして繋げてほしい。</p>
<p><政策推進課> まだまだ未知数の話ではあるが、構想として認識したので、今後検討していきたい。</p>
<p><委員> 今回のデジタル総合戦略について多岐にわたっていると感じた。内容を見ると難易度の高いプロジェクトも多く見られた。その中で、役場の人材の投資ということで、庁舎の中でデジタル専門の人はいるのか。またこれからデジタル人材を採用、育成していく予定はあるのか。</p>
<p><政策推進課> 役場内については、デジタル専門の人が2名いる。随時役場職員としてデジタル人材を確保したい意向はあり、探している状況。空白の部分を企業との連携でカバーし補完していく方向性でいる。まちづくり全体の中でいくと、移住者をデジタル人材として育成しながら3～5年後には、自らがデジタルの仕事を生業として生計を立てることができる事業提案もある。まちづくりにおいて、デジタル人材が地域の中に根付いていくと、いろんな世界が広がりデジタルが身近になると考えている。</p>
<p><委員> 暮らし雇用の分野でリモートワークやサテライトオフィスの誘致の部分でキーワードがあげられているが、具体的な取り組みでリモートワークや企業へのサテライトオフィスの誘致についてあれば教えてほしい。</p>
<p><政策推進課> 継続事業については、チャレンジショップ、サテライトオフィスは早来地区に設けている。今後、既存の公共施設の一部をワーキングスペース化や、ニーズが多ければサテライトオフィスの増設などの構想がある。ニーズを把握して事業を実施していく。</p>
<p><委員> 安平町のリモートワークについて、検索しても企業向けの情報ばかりで、移住してリモートワークを検討しているような個人向けの子育て世代などに対しては、ニーズがずれている印象を受けた。リモートワークを希望する人は住環境の充実や、パソコンのスペックを重視する職種の人が多いので、トレーラーハウスの環境だと魅力が伝わらないと思った。 逆に企業など、大人数のリモートワークについては、作業スペースの確保やミーティングを想定した設備があった方が、活用しやすいのではないか。</p>
<p><政策推進課> 一度いわゆる、おしゃれな共用ワーキングスペースを作る事業の話はでていたが、事業費や地域・企業のニーズのバランスが整っていないため実現はできていないが、そういった話が膨らんだ時にはニーズに応じていきたい。</p>

<p><委員> 早来学園図書室の「まなびお」は企業が活用できたり、子どもがいたり、いろんな人が活用していて、今回の話の内容に一番に近いと思う。まなびおのような施設が増えていけば地域と密着した形になると思う。</p>
<p><政策推進課> まだまだ、まなびおを知らない人が多いと思うので、これから認知してもらえるように取組んでいく。</p>
<p><委員> デジタルを使わない人も一定数いる。高齢者でスマホの操作で行き詰まって、利用をやめてしまう人がいる。簡易な操作などで 困ったときに聞きに行けるような場所の仕組み作りが構想にあがっていれば教えてほしい。</p>
<p><政策推進課> デジタル技術を導入した時に、相談や悩みは出てくる。高齢者やデジタルに慣れない方の相談体制の構築を検討している。原課と話しながら詰めていきたい。</p>
<p><委員> スマホ教室や大がかりなものではなく些細な事、1, 2分で解決すること例えばWi-Fiが切れている、マナーモードの解除の方法が分からないなど、少し教えてもらうだけで使えるようになる人もいますので、そういった人たちが取り残されなければいいと思った。</p>
<p><政策推進課> スマホ教室を開催した時に、スマホの操作以前の話で契約の仕方がわからない人もいた。そういった方に対し、NPO法人でよろず相談というワンコイン制で困ったことを相談できる取組みもあるので、役場とNPO法人とできる事を課題整理しながら取組んでいく。</p>
<p><外部有識者> 官民連携によるみんなの学校の丘の整備や取組みとあるが、文面ではここまでしか書いてなかったが、何か具体的な取組みはあるのか。</p>
<p><政策推進課> 来年度から3か年計画で置いている。町民と話し合いをしながら、敷地内のスペースに公園のようなものを建てるのを、みんなで考える事業になっている。</p>
<p><外部有識者> 0から始まる事業に関しては、デジタルを導入しやすいと思うので、みんなの学校の丘の事業について、デジタルを導入してはどうかと思った。 通信大学の話もあったが、自分も通信大学に通っていたが休みの期間は大学に行かなければならなかった。都市部だと宿泊費が高く大変だったが、安平町などの田舎に大学があるといいと思った。今の時代、経営困難な大学があると思うので、大学と連携しながら、行うといい。 43ページのグローバル社会に対応した英語教育の充実についても、デジタルと関われると思う。安平町のスローガンの中に世界と繋がるとあるので、教育に繋がればいいと思う。</p>
<p><政策推進課> 英語教育については、文化をテーマとして外国を学ぶあびら教育プランのコンテンツや、社会教育の国際交流事業では外国人と触れる機会を作っている。空港に行き、1日インタビューを行い外国人と交流するなど、すでに下地を作り始めている。</p>
<p><委員> そもそもなぜデジタル化するのか、お聞きしたい。</p>
<p><政策推進課> 地域課題に資することを、国に補助金として貰えるうちにデジタル化整備するイメージで、もう少しライトに考えていただければと思う。</p>
<p><委員> 資本家たちの権力集中のモノカルチャー化や遺伝子組み換え技術と化学肥料による食と農の支配などの問題から脱却するためにアグロエコロジー推進条例を設定しては</p>

どうか。

<委員>

オーガニックビレッジ宣言は何をもとに宣言されたものなのか。

<政策推進課>

オーガニックビレッジ宣言は今年の4月3日に宣言されている。国の令和3年度の補正事業でみどりの食料システム戦略緊急対策交付金の事業に、安平町農業再生協議会で策定した「安平町有機農業実施計画」を後押しするために宣言されたもの。

オーガニックビレッジ宣言の内容としては、5年後に目指す目標として、有機JAS認証の新規取得者の増加や、有機JAS認証を取得した面積の拡大を掲げている。

<政策推進課>

デジタル計画と両輪で進めていく中で、言葉の表現や見せ方を工夫して進めていきたい。

(2) デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）の評価・検証について
【資料2】

◇資料に基づき、評価・検証について説明

◇質疑応答要旨

<外部有識者>

早来学園の建物について、子どもたちの居場所が沢山あり、いいデザインだと思う。札幌で不登校児のフリースクールの支援を行っているが、コロナ禍以降の家庭問題の中で一番弱い立場の子どもたちに影響がでていて、不登校児が増えている。全国的にも30万人以上いるといわれている。教育の方法にもバリエーションが出てきている。オンライン授業や、授業を録画しオンデマンド形式で授業を実施することも大事になっていく。子どもの居場所が欲しいといった声が多くなっているの、そういう点も総合戦略のポイントになると思う。

<政策推進課>

遠隔授業について新しい視点に気づかされた。アイディアの一つとして参考にさせていただきたい。

6 その他

- ・次回は1月に開催を予定。

7 閉会 (17:00)

以上、終了。